

編 集 後 記

コロナ禍による激動の令和2年を締めくくる本号も無事発刊に至りました。難局の中、精力的に論文等を投稿していただいた皆様並びに論文の査読を快く引き受けていただいた先生方に心から感謝申し上げます。

本号では招待総説1編、原著論文1編並びに最近のトピックス3編の投稿をいただきました。巻頭の北海道医療大学リハビリテーション科学部理学療法学科の澤田篤史先生による招待総説では、超高齢社会における医療体制のあり方について述べられており、歯科医療でも問題視されているサルコペニアやフレイルに対する日常的運動、栄養管理並びにリハビリテーションの連携に基づく包括的な対策の重要性を強く感じることができました。原著論文は、解剖学分野の高橋昌己先生からの投稿です。高橋先生からは軟骨細胞の低酸素環境におけるホメオスタシスに関する分子機構について、エレガントな免疫組織化学染色を用いた詳細な検討結果が報告されています。また、薬理学分野のRezon Yanuar先生からはムスカリン受容体の細胞内情報伝達機構について、小児歯科学分野の岡田悠之介先生並びに生理学分野の石川里奈先生からは、顎顔面領域の自律神経性血流調節機構に関連する最近のトピックスをそれぞれ紹介していただいております。いずれも大変興味深い内容ですので、是非ご一読ください。

コロナの感染拡大は未だ衰えず、終息の見通しは未だ不透明です。令和3年も不安な気持ちは癒えませんが、暗雲低迷の中で大きな希望と勇気を与えていただきました皆様に心から感謝申し上げます。今後も、歯学雑誌のさらなる充実に努めて参りますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようどうかよろしく願いいたします。(石井 記)

次号（第40巻、第1号）の発行は令和3年6月30日です。

投稿原稿募集の締め切りは令和3年3月31日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2020年第39巻、第2号の巻末をご参照ください。